

# 「道しるべ」

第77号



おご

## 『驕り』

撮影：森 正廣 2020.7.26

【**驕れる者久しからず ただ春の夜の夢の如し**】(平家物語の一文)

余に栄え得意になっている者も、**その栄はずっとは続かず**春の夢のようである。勢い盛んで激しい者も結局は滅び去り、まるで風に吹き飛ばされる塵と同じようである。この世のすべての現象は、**絶えず変化**していくものだ。

【**治に居て乱を忘れず**】 PHP衆知より

世の中というものは変転きわまりなく、いついかなる事態が起こるかもわからない。だからこそ、平和で順調な時期にあっても常に**混乱、逆境**というものに思いを致し、心構えの上でも実際的な点でも、いわば**物心両面の備え**を怠ってはいけない。

この6月にセカンドを購入することができ、その時に頭に出てきた言葉です。あまりにも順調、怖いくらいに。そして浮かれている自分。「10年も続けて順調に成長している会社があるとしたら、かえって危険だ。どこかに必ずゆるみが出てくる」これからは**「正念場」**もう一度初心に戻り、足が地に着いたしっかりとした良い経営を目指したいと思います。



「**勝って兜の緒を締めよ**」

令和2年8月 森 正廣

# 「脇見運転と前方不注意との違い」

トラックによる追突事故の8割以上が、停車している車両に追突しています。

その原因の多くは脇見運転です。初めての道は「車外への脇見」が多く、慣れた道では「車内での脇見」が多くなる傾向、運転中に車窓からの景色に目をやることや、車内で飲み物に手を伸ばしたりラジオやエアコンの調整をしたりする無自覚の脇見運転は、だれしも経験ゼロとは言い難いはずです。



運転中の危険行為と広く認知されている脇見運転も、携帯電話の使用などを除けば交通違反とはされていません。

脇見をしながら運転をしても交通違反で検挙されるようなことはなく、脇見運転により前方が不注意の状態に陥ることで追突事故が発生すれば、その脇見運転は前方不注意の言い回しに変わり、前方不注意は安全運転義務違反に該当する違反行為として取り扱われます。

つまり脇見運転と前方不注意は同じ行動でありながら、行動の結果として「交通事故の有無」により、脇見運転が前方不注意の言い回しに変わるだけです。

無自覚を含む脇見の行動は誰からは見えない車内で行われるため、見られていないから脇見運転をしてもいいのではなく、自身が前を見るために脇見運転をしないようにと自分を律することでしか効果的な対策が見当たりません。

場所を探しながらの地図を見ながら運転にならないように、運転中は傍に地図を置かないようにし「脇見をしない」ではなく「脇見ができない」ように運転環境作りにも取り組みましょう。



自身が脇見をしていなくても前車の運転者が脇見をして、急停車などの危険運転になることも想定されます。

そのような道では「前方車両が停まるかもしれない」と予測して、前車のリアガラス越しに運転者の行動を確認しようとすることや、急停車にも対応できるように車間距離を長めに確保することも重要です。

「車間距離の長さ」は「前車との速度の差」にも比例し「車間距離の長さ」は「無事故日数の長さ」にも比例します。

前車との車間距離だけでなく、運転中に足元に落ちた物を拾おうと脇見運転になることがないよう車内空間の整理整頓にひと手間を掛けることや、早目に小まめな休憩時間の設定などの「間の使い方」が適切ではないドライバーほど追突事故の可能性が高くなります。

走行中の車間距離を長めに確保すれば、追突事故を防止できます。

信号待ちで停車中の車間距離を長めに確保すれば、運転マナーが良く映ることで交通クレームの発生や「あおられる」などの交通トラブルを防止できます。

その事例は間近で身近な「あるある話」として社内で共有しましょう。



**追突事故は前進中に「やってはならないことをやっていた」時に発生します。**

**後突事故は後進中に「やるべきことをやらなかった」時に発生します。**

**交差点事故は「相手に怪我（けが）を負わせる」ことが多くなります。**

**追突事故は「ドライバーが怪我をする」ことが多くなります。**

**交通事故につながる交通違反を犯さないことを約束しましょう。**